

2010. 2011.
11/13日 - 1/9日

開館時間: 午前10時 - 午後6時 (入館は午後5時30分まで)
休館日: 月曜日、12月28日(火) - 1月4日(火)

目黒区美術館
Meguro Museum of Art, Tokyo

主催: 多和圭三展実行委員会、(財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館
助成: 財団法人地域創造

観覧料: 一般700(550)円、大高生・65歳以上550(400)円、中学生以下無料
*()内は20名以上の団体料金、障がい者とその付添者1名は半額

Keizo TAWA — Striking Iron



鉄を叩く

多和圭三展



《無題》1999年 鉄 198.0×47.5×47.5cm(×4) 日本大学芸術学部所沢校舎での展示

厚さ数十cmもある鉄板から切り出され「塊」となった鉄を、多和圭三はハンマーで叩きつけてきました。気の遠くなるような回数を重ねた一打ちごとの痕跡が、鉄塊を作品へと変貌させました。作家の身体と深く結びついた「叩く」という作業によって、鉄は、時に荒々しく、時に繊細な表情を与えられ、その内部には根源的なものにのみつながる光や生命を宿し、誰も見たことのない新たな「鉄そのもの」となったのです。



瀬戸内海に浮かぶ大三島(現・今治市)で1952年に生まれた多和圭三は、日本大学芸術学部で彫刻を学びました。1981年には真木画廊で初個展を開催。以来、鉄を叩くことを通して制作を続けてきました。本展

では、1970年代後半の初期作から最新作まで、代表作を中心に、石・鉛など鉄以外の素材による作品、ドローイング、野外展の記録写真、制作の映像記録なども併せて展示。ひとりの希有な作家の仕事の本質に迫ると同時に、最新の作品群に至るその道程を通じて、立体表現の同時代性と可能性にも思いをめぐらせていただければ幸いです。

本展は立地も建築空間も異なる3つの美術館の共同企画として構想・準備され、それぞれの場所に合わせて、多和圭三は、新たな拡がりや意味をもつ空間を作り出しました。3つの空間との対話から生まれたひとつの展覧会が目黒区美術館で完結します。



《無題》1984年 鉄 60.0×100.0×30.0cm



《無題》1991年 鉄 24.5×70.0×50.0cm 東京国立近代美術館



《沼》2002年 鉄 49.8×91.2×91.0cm



《原器 - 正六面体 -》2006年 鉄 50.0×50.0×50.0cm 文化庁



《ハッチング》2008年 鉄 50.5×51.0×50.5cm



《景色 - 境界 -》2008年 鉄 10.1×291.5×298.5cm(手前)/12.5×291.5×298.5cm(奥)[2点組]

会期中には多和圭三本人によるワークショップ、ギャラリーツアーなどが予定されています。詳細は順次、目黒区美術館ウェブサイト(<http://www.mmat.jp>)をご覧ください。

JR山手線・東急目黒線
東京メトロ南北線・都営三田線
目黒駅下車徒歩10分

東急バス
権之助坂(目黒通り)下車徒歩5分、
田道小学校入口(山手通り)下車徒歩3分
目黒区民センター敷地内



目黒区美術館 Meguro Museum of Art, Tokyo
〒153-0063 東京都目黒区目黒2-4-36
Tel. 03-3714-1201 Fax 03-3715-9328
<http://www.mmat.jp>